

令和4年度訪問型家庭教育支援推進事業第1回専門講座
(参加者 42名)

講演◆「切れ目のない支援と訪問型家庭教育支援について
～学校教育と福祉行政の連携～」
奈良学園大学 学長補佐 社会・国際連携センター長
人間教育学部 特任教授 善野 八千子 氏

◎家庭教育支援の活動⇒**子供の人権**にかかる働きかけ
⇒家庭教育と学校教育を**つなぐ**役割

◎**就学前教育**が子供の人生に及ぼす影響
⇒**学ぶ意欲**の持続・向上

◎子供へのかかわり方
⇒**受容と共感**の言葉かけ
「ありがとう」「うれしいわ」
「助かるわ」「安心するわ」

◎保護者へのはたらきかけ
⇒**地域・学校園・行政が**
チームとして子育て支援を！



ワークショップ◆それぞれの立場で、訪問型家庭教育支援について考えてみました。考える視点は支援に関わる社会資源、**人・もの・こと・情報**です。それぞれグループに分かれて意見を出し合いました。

訪問をしてもなかなか会えない人には
どんな支援が効果的かしら？



学校から保護者宛ての
手紙を出してもらうことは、支援チームを知ってもらえる方法です。



福祉に関わる課と教育に関わる課の**連携**をさらに進めたいです。

事業の目的を
支援員みんなで共有して進めることが大切ですね。



情報誌の発行を行っています。



ワークショップ◆グループ協議のあと、各グループが全体で発表しました。
(2) グループの発表ごとに、善野先生から講評をいただきました。

SSWやSCと支援チームが連携し、互いによく機能できる仕組みを構築させなければいけませんね。

支援員は地域のひとと**長くつながる**存在になりますね。

引っ越して来たお宅への家庭訪問の際、支援員として**どんなアプローチが必要**？



支援チームの立ち上げを学校として**心強く**思い、期待をしますと話しました。



参加者の感想（一部抜粋）

◆資料も豊富で分かりやすい講演でした。時間の関係で途中省略された部分ももう少しお聞きできたらと思います。本当にありがとうございました。

◆教育は人づくり、町づくり。そのための家庭教育支援による接続の大切さについて、改めて勉強させていただきました。

◆家庭とのつながり、家庭教育支援がなぜ大切なのか、どのような関わり方をしていけばよいのか、分かりやすくユーモアも交えてお話くださいました。

◆教育のつながりの大切さ、ネットワークの大切さがよく分かりました。次につながっていくお話をお聞きし、パワーをいただきました。支援員としてできることをネットワークを軽くして進めていきたいです。

◆変えられないものと変えられるものを見極め、変えられるものに対して全力をつくしていきたい！

◆多岐にわたる内容について具体的に話していただき、明日からの教育に生かしたいと思いました。善野先生の軽快な語り口に魅了されました。

◆今までのワークショップとは少しちがう形で、グループ内でいろんな話ができました。すべてのグループの報告に対して先生からのコメントを聞くことができたので、改めてグループ全員で確認ができ、よかったです。

◆様々な立場の方と話ができとても有意義な時間になりました。学校の先生が多く、現場の話をお聞きすることができて、勉強になりました。

◆話を出しやすく、課題に気づいていけるワークショップでした。

◆様々な市町の取組をお聞きすることができて、大変参考になりました。できることから始めてハートワークのできる組織づくりに努めていきたいです。

◆不安に思っていたことが解消されました。

◆それぞれの地域で少しずつ訪問型家庭教育支援が進みつつあると感じました。初めから完璧を求めるのではなく、小さなことからコツコツと、やれることから始めることが大切かなと思いました。肩ひじ張らず、息を長く続けられるように、歩んでいきましょう。